

第457回鉄鋼流通問題懇談会

2022年4月26日（火）15：00

議 題

1. 新鉄流懇会長ご紹介 赤木純一氏（JFEスチール㈱常務執行役員）
2. 経済産業省挨拶（経済産業省金属課課長補佐 佐藤俊輔氏）
3. 配布資料説明（全鉄連）
4. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、新潟地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇4月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
5. 意見交換
6. 鉄流懇会長挨拶
7. その他

○次回以降会議予定

2022年7月 日（ ）14：30～

於：未定

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2022年4月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	日鉄物産
1. 需給動向 (景況感)	(店売り分野) 昨年来のプレスコラムの納期長期化などの影響により、鋼材納期全般も後ろ倒しされている。また中小案件着工も低調であるため、年始以降、特約店の再販は低調が続き、在庫は増加傾向。 斯様な状況ではあるものの、主原料、諸物価上昇を受けたメーカー値上げの転嫁に各社取り組み開始している。	2022年2月末の薄板3品在庫は、先月比横ばいの464.6万トンであった。在庫内訳はメーカー在庫が202.5万トン(先月比0.1%増) 間屋在庫が100.7万トン(先月比2.1%増) コイルセンター在庫が161.4万トン(先月比1.2%減)となった。 品種別では熱延鋼板が223.6万トン(先月比0.4%減)、冷延鋼板が101.8万トン(先月比0.9%増) 表面処理鋼板が、139.3万トン(先月比0.1%増)であった。 3品在庫が高水準で推移している要因としては、メーカーは減産をしているが、半導体不足、コロナ禍によるサプライチェーン問題、ロシアウクライナ問題などの影響が自動車だけでなく、家電関係にも影響が出始めており、需要が減少している事が要因と思われる。	2022年3月末の全国厚中板在庫は414.3千トン(前月比+3.2%、前年同月比+18%)、稼働日の影響で入出荷量ともに増加となったが、入荷量が出荷量を上回ったため在庫量は増加した。在庫率は278%(前月比+2ポイント)と依然適正200%に比べ高い状況が続く。建産機向けについては輸出向けを中心に受注は堅調であるが、半導体をはじめとする部品調達ネックにより大手メーカーの生産調整が拡大されつつある。建築も物流倉庫や大型再開発案件は堅調に推移しているが、中小型案件は価格高騰により延期や中止が散見される。橋梁案件も補強工事を中心に需要は安定しているが、人手不足による出回遅れが発生している。各分野ともに潜在需要はあるが、価格高騰や部品調達、人手ネックによりシャーの稼働が本格的な回復には至っていない。	棒鋼：北京五輪後の経済政策への期待感、ウクライナ情勢影響による原料のタイト化から国内スクラップ市況が急騰し、メーカー各社がその警戒から販売価格を切り上げ、ゼネコン、流通は細細の手仕舞いで追われた。関東地区でも2月、3月の商社推定発注量は月平均値の1.5倍超となる30万tを超え、製品市況も大きく上昇、現在も上昇傾向が続いている。 形鋼：流通指標の1つである5月のときわめ発表において、稼働日影響はあるものの、4ヶ月ぶりに出荷量が7万t台に回復し、在庫量も半量ぶりに減少。出荷数量も2か月連続で対前月比増。価格も3か月連続で値上げを発表、メーカー側の販価上昇のスピードは速いが、実態の実需としては荷動き低調の為、市況価格の改善が速いといっておらず、早急な市況価格改善が求められる。
2. 需要産業動向	<建築・土木>2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比6.4%増の6.5万戸で12か月連続の増加、一方民間非居住用建築物の着工延床面積は346万㎡と前年同月比12.3%増。店舗、工場、倉庫は増加したが、事務所は減少した。全建築物では、着工床面積は922㎡と前年同月比7.3%増となった。 <自動車>2月の国内生産台数は、前年同月比1.6%減の65万台だった。半導体等のサプライチェーン不全の影響が続いており、生産計画の下方修正が相次いでいる。先行きは不透明。 <建設>2月の建設機械出荷金額は、内需2.8%増の786億円、外需38.9%増加の1,764億円となり、外需は16か月連続の増加となった。総計では25.4%増加の2,550億円となり、16か月連続の増加となっている。 <造船>2月の船台受注・造船実績は、受注9隻、起工19隻、竣工18隻、竣工船価699億円(前年同月比58.5%増)であった。	2022年2月度の国内新車販売台数は、35万4668台となり、前年同月比で82%で、8か月連続で前年割れとなった。内訳として、普通車が21万3699台(前年同月比81.4%)の軽自動車は14万960台(前年同月比83%)となった。 2022年2月度の民生用電気機器の国内出荷金額は、1,885億円(前年同月比98.3%)で、9か月連続のマイナスとなった。 ルームエアコンは481億円(前年同月比93.8%)9か月連続のマイナス、電気洗濯機は322億円(同99.3%)2か月ぶりマイナス、電気冷蔵庫は369億円(同110.1%)と4か月連続プラスとなった。新設住宅着工数の回復により、IHクッキングヒーターは62億円(同105.3%)、食器洗い乾燥機は38億円(同108.4%)と前年を上回った。国土交通省が発表した2022年2月度の新設住宅着工戸数は、6万4614戸(前年同月比106.3%)と12か月連続の増加となった。内訳として持家が1万9258戸(同94.4%)、3か月連続減、貸家が2万3583戸(同104.6%)12か月連続増、分譲住宅は2万1453戸(同123.3%)となった。	国内造船所の輸出船契約実績は22年3月182.7万総トン(前年同月比+21%、前月比4.4倍)。コンテナおよびレク船中心に受注を固めるとともに期末の駆け込みもあり大幅増。22年3月の輸出船手持工事量は1,901万総トン(前年同月比+26%、前月比+4.5%)となり、19年12月以来の1,900万総トン台だった。21年の年間竣工量をベースにすると約1.9年分まで回復。建設機械の2月出荷金額は内需が786億円(前年同月比+2.8%)、外需は1,764億円(同+39%)、総計では2,550億円(同+25%)。増加率は減少傾向にあるも全地域で増加、全体では16ヶ月連続で増加した。産業機械の2月受注金額は内需が2,313億円(前年同月比+18%)、外需は1,038億円(同+87%)、総計で3,351億円(同+66%)。機種別ではボイラ、タンク、プラスチック加工機械など計7機種で増加となったが、化学機械が大幅に減少(同-90.5%)したため、総計では6ヶ月ぶりの減少となった(21年2月には過去最高水準)。	2021年度4月-1月の首都圏RC造着工床面積は、ほぼ前年並みに推移、一方首都圏マンション着工戸数は前年同月比▲14.4%の落込み、首都圏S造着工床面積は+24.9%の増加となっている。ゼネコンの稼働状況に大きな変化は見られないが、今後都内の大型再開発案件着工を控え、コロナ禍、ウクライナ情勢の影響による職人や資材の確保に不安を残している。 一方で、2022年2月の建築着工統計に基づく換算鉄骨量は3.4万tと対前年度比増加は21年1月以降連続、大規模S造案件が顕著に出件していることに加え、市中の荷動きに影響を与える小規模S造についても、21年4月以降前年を上回る水準で推移。ただ、市中の荷動きは鈍く、統計数字と実態の合致が待たれる
3. 輸出入動向	2022年2月鋼管輸出货量 継目無鋼管：1万5,935トン(前月比+6.5%) 溶銲接鋼管：3万507トン(前月比+82.5%) 2022年2月鋼管輸入量 継目無鋼管：1,282トン(前月比+19.9%) 溶銲接鋼管：9,369トン(前月比+9.4%)	2022年2月度の薄板3品在庫の輸入量は、22万7千トンであった。主要品種別では、熱延広幅帯鋼10.3万トン(前年同月83.4%)と6か月ぶりのマイナス、冷延広幅帯鋼6万トン(同87.2%)で13か月ぶりのマイナス、亜鉛メッキ鋼板が、6.4万トン(同95.3%)と4か月ぶりのマイナスとなった。 2022年2月末の岸壁在庫は15万9千トン(前年同月比140.7%)と高水準である。	22年2月の輸入通関実績は26千トン(前月比▲34%、▲13千トン)。韓国が25千トン(同▲32%、▲12千トン)、中国が0.1千トン、台湾が1千トン。前年同月比では▲50%と3ヶ月連続の減少となった。22年2月の貿易輸出実績は224千トン(前年同月比+35%)。韓国が86千トン(同3.7倍)、ベトナムが26千トン(同2.4倍)と大幅に増加した。一方で中国は57千トン(同▲3.5%)、台湾は11千トン(同▲18%)、タイは7千トン(同▲27%)と減少した。前月比では+1.3%となった。	直近の実績(22年1月統計データ)に見る輸出入状況 輸出：形鋼 37.8千MT(前月比↓2% 前年同月比↑15%) 異形棒鋼 108.1千MT(前月比↓20% 前年同月比↑40%) 輸入：形鋼 3.6千MT(前月比↓70% 前年同月比↓66%) 異形棒鋼 108.1千MT(前月比↓12% 前年同月比↓5%) 国内・海外市場とも需要低調で輸出入とも前年平均を割り込んだ遅い出足となった。
4. 海外市場動向	ロシアのウクライナ侵攻の結果、油価はWTI・ブレントとも\$100/バレル台を超えており、また天然ガスも欧州へのロシア産ガスの代替供給の話が進んでおり、欧州・北アフリカ・中東での掘削活動の動きが活性化する兆しが見えつつある。また、ついに北米でもOil & Gas産業への資金投下の動きが出始めており、Rig Countも今までより早いSpeedの増加傾向斗なっている。また、原料炭の価格高騰と全世界的な鉄資源確保の動きに加えて、Niの高騰を受けて、炭素鋼のみならず特にステンレス鋼管においては、顧客側にSecurity of Supplyを意識した動きが起き始めており、価格より量と納期の確保を優先する傾向がある。ロシアのウクライナ侵攻の動向によるが、2022年・2023年は特にガス開発を前倒しする動きが継続される可能性があり、ステンレス鋼管を含む高級に関しては、需要が強い環境が続く可能性がある。	2022年2月度世界粗鋼生産実績は、1億4,270万トンで、前年同期比▲5.7%であった。 中国粗鋼生産は、1-2月合計の粗鋼生産量は1億5,796万トンと前年同期比で▲10%であった。中国の不動産建築は低調だが、政府のインフラ投資再開で土木向けの需要が増え製鉄業も回復基調にあり、3月後半以降粗鋼生産が増える可能性がある。	韓国メーカー3社の22年1-3月の販売量は2,238千トン(前年同月比+3.9%)、国内販売量は1,759千トン(同+12%)と増加したが、輸出販売量が479千トン(同▲17%)と減少した。国内向けについては新型コロナウイルス感染症の拡散による輸送需要の拡大から造船メーカーの船舶の受注量が急増し、造船向け厚板の販売量が大幅に増加したと推定される。中国は過剰生産能力の削減や、二酸化炭素(CO2)の排出量抑制により21年粗鋼生産は10億3524万トン(前年比▲2.8%)と6年ぶりの前年割れとなった。また、今年に入り22年の全国粗鋼生産も前年を下回るよう減産政策を継続すると発表したため、今後は国内外ともに需給タイトとなり市況価格は強含みで推移すると想定する。	コロナ収束による経済復活への期待、各種鉄鋼原料価格上昇、そして最大市場である中国が全人代においてインフラ投資への傾注を表明したことなど複数の要因から建設鋼材市況が上昇トレンドに入っていたところに、ロシアのウクライナ侵攻が起ったことで欧州鋼材市場が劇的にタイト化、極端な値上がりが生じている。他方、中国ではコロナ防疫のための都市封鎖が実行されたことで国内市況の勢いに完全にブレーキがかかっている。 極めて特殊な状況にあり、その見極め、見直しとも困難と言わざるを得ず、事態の推移を注意深く観察するべき局面と見料する。

鉄鋼流通問題懇談会（2022年4月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・4月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（12月）調査比▲3の+14と、20年6月調査以来7期振りの悪化となった。エネルギー価格の高騰や半導体を中心とする部品供給制約に加え、ウクライナ情勢の悪化に伴う輸出入の制約や現地での生産停止、物流の混乱などが、幅広い業種で悪化につながった。先行きについては+9と5ポイントの悪化。資源価格の高騰や国際情勢の不安定化に伴い、慎重に見る企業が多い。21年度設備投資計画は大企業では前年度比+5.9%。前回（+10.3%）比で下方修正となった。進捗の遅れなどにより、翌年度に繰り越される例年のパターンとも言える。次回以降を注視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、2月小売業販売額は前年同月比▲0.8%と5ヶ月ぶりの減少。コロナ感染状況の悪化による影響が見られた。 ・製造部門では2月四輪車生産は前年同月比▲1.6%と7か月連続の減少、機械受注は▲9.8%と2か月連続の減少。 ・建築部門では11月の全建築物建築着工床面積は922万㎡と5か月連続の前年同月比増となった。 <p>（海外）・感染症拡大がピークアウトした国では行動制限の緩和、景況感の改善が見られる一方で、ウクライナ情勢が資源・エネルギー価格の上昇や、サプライチェーンの混乱による製造業の回復遅れなど、経済の下押し要因として大きな懸念材料となっている。</p> <p>米国：内需は堅調、雇用情勢の改善も進んでいるが、インフレ圧力や利上げの影響に対し留意が必要な状況。</p> <p>欧州：エネルギー価格の上昇によるインフレの加速とロシアへの経済制裁の影響がボトルネックとなり、先行き不透明感が増している。</p> <p>中国：ゼロコロナ政策に基づく都市封鎖により、個人消費や、物流の混乱・人流制限による製造業の生産活動への影響・懸念が高まっている。22年3月の全人代で確認された安定した経済成長に向け、政府による支援策実施が期待される。</p> <p>ASEAN：域内各国の経済回復は進むが、先進国の金融政策変更によっては、資産価値下落懸念などの混乱も想定される。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・22年3月の粗鋼生産は796万tと前年同月比で3ヶ月連続の減少。21年度では9,564万tと5年振りの増加となった。</p> <p>（出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷は308万トンと12ヶ月振りの減少。</p> <p>（在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は623万トン7ヶ月連続の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月末の薄板3品在庫は465万トン（前年同月+0.1万トン）と3ヶ月連続の増。 ・2月末の厚板シャー在庫は41万トン（同+1万トン）と6か月連続の増加。
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・2月の新設住宅着工戸数は6.5万戸（前年同月比+6.3%）で12ヶ月連続の増加。持家が減少も、分譲・貸家が増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は371万㎡（同+11.0%）で2か月連続の増加。公益事業、鉱工業が増加。 <p>〔自動車〕・3月の国内販売（輸入車除く）は47.7万台（前年同月比▲16.0%）。9か月連続の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の完成車輸出は31.2万台（同▲7.4%）で2か月連続のマイナス。引き続き部品供給制約による生産抑制影響が見られる ・2月の四輪生産（速報）は69.3万台（同▲1.6%）で7ヶ月連続のマイナス。 <p>〔造船〕・3月の新造船受注量は183万GTの受注、3月末の手持工事量は1,901万GTと19年12月ぶりに1,900万Gt台へ回復。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・2月の全鉄鋼輸出は257万トン（前年同月比▲5%）で2ヶ月連続の減少。</p> <p>〔輸入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は36万トン（前年同月比▲14.9%）で4か月ぶりの減少。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・3月の世界粗鋼生産は1億6,100万トン（前年同月比▲5.8%）と8ヶ月連続の減少。 ・3月の中国粗鋼生産は8,830万トン（同▲6.4%）。引き続き、粗鋼生産の抑制が確認される。動向を注視する。 ・3月の中国鋼材輸出は495万トン（同▲34%）。 ・中国市中在庫は、4月21日時点で1,619万tと春節明けの在庫吸収は例年と比較し緩やか、内需の力強さに欠く状況が確認出来る。